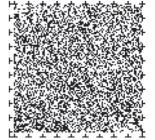




平成 26 年 2 月 26 日
第 107 号

発行 福岡視力障害センター
〒 819-0165 福岡市西区今津 4820-1
(電話) 092 (806) 1361
(FAX) 092 (806) 1365

ホームページ <http://nrkd.jp/fukuoka/>
印刷 社会福祉法人 福岡コロニー



卒業生を送ることば

所長 酒井 健治

3年間の課程において学習や実技の実習を積み重ねて、本日、晴れて卒業を迎えられた皆さん、おめでとうございます。

皆さんは、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師になるという目標の実現に向け、当センターに入所されました。

苦勞した解剖の授業、ひやりとした試験や進級のこと、ドキドキした実技の実習、楽しかったスポーツ訓練発表会や福祉村運動会への参加など、いろいろなことが思い出されると思います。

また、皆さんが入所された平成23年は、3月に東日本大震災、これに伴う原発事故という未曾有の大災害が発生した年でした。いまだ復興途上ではありますが、流れるニュースなどから、東北地方の方々を心配し、何かできることはないかなどと考えたりしたのではないのでしょうか。

さて、皆さん、卒業という節目は、多くの方々に感謝し、自分の夢や希望に向けてスタートする時です。

これから地域の医療の一端を担う理療師として、

地域や職場での人間関係を作り、たくさんの患者さんと接し、患者さんが満足する施術をしていくこととなります。

荀子の「青は藍より出でて藍より青し」という言葉があります。青色の染料は、藍という草から原料を取りますが、そのままでは染料はできません。しかし、難しい工程を踏むことにより藍から取れた染料の青さは、原料の藍よりも濃く、鮮やかであるということから、弟子が師匠より優れていることの例えや、人が成長する上で教育や本人の努力がどれほど大切かという例えに使われます。

人生半ばでハンディキャップを負い、これまでいろいろなことに努力してきた皆さんですが、後者の例えのように、センターで学んだことや経験をもとにさらに技術の向上などに努力し、地域や職場で信頼される理療師になっていただきたいと思います。

最後に、卒業生を支えてこられたご家族の皆様にお祝いを申し上げますとともに、卒業生の皆さんのご健康とご多幸を祈念いたしまして、「卒業生を送ることば」とします。

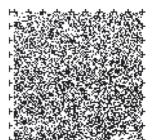
同窓会会長 福島 則文

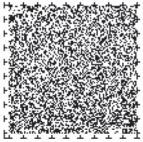
卒業生の皆様方へ

卒業生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。

一日たりとも頭の中から消えることのなかった国家試験。3年間懸命に頑張ってきたあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家資格の取得。卒業後は素晴らしい施術者になれることを心からお祈り申し上げます。

同窓会は平成26年9月に設立40周年記念式典を計画しております。是非素晴らしい先輩方がいらっしゃる同窓会に入会していただいて患者様に愛される施術者として活躍されることを希望致します。地域社会の繁栄、そして自らの成長に悔いのない人生をお送りください。





卒業生からのメッセージ

N.Kさん（長崎県出身）

桜の花びらが舞い散る中、このセンターに入所したところを昨日のこのように覚えています。生活に慣れるまで時間がかかり、また慣れない学科や実技で一喜一憂したり…。そして、3年生になり、臨床や学科で自分を振り返ることなく、いつの間にか卒業を迎えることになりました。

クラスメイトと職員の皆様方の支えがなければ私は頑張ることができなかったと思います。本当に有難うございました。これから社会に出る時、誰かの“なごみ”になるような施術を目指していきたいと思います。

K.Kさん（福岡県出身）

2014年を迎え、今の率直な気持ちを聞いて頂きたいと思います。長いようで、短い3年間のセンター生活が幕を閉じようとしています。しかし、よくよく考えてみると、「そうだ」まだ、スタートラインにも立っていないんだと、卒業・国家試験といくつもの高い壁を乗り越えなければいけないんです。今まで支えてく

れた家族、親身になっていただいた支援課・教務課の皆さんの笑顔を見るために、自分の可能性を見たいがために頑張るんです。在所生の皆さんへ、仲間と共に、苦しい、楽しいセンター生活を送ってください。長い間有難うございました。



「卒業生」

K.Aさん（山口県出身）

卒業にあたって。

このセンターであ・は・きの勉強を始めて三年、月日の経過の早さに驚いています。私がここで、何を学んだのか、今思い起こしてみると、人との付き合い方と自分自身を知る事だったように思います。そして何よりも健康が第一という事です。話し下手で無口な私ですが、幸いにも友人や教官、職員の方々、ボランティアの方たちに恵まれ、有意義なセンター生活を送る事ができました。本当に有難うございました。

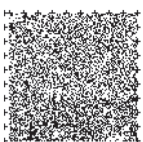
卒業生へのお祝いの言葉

3年生教務課担当 池田 正道

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。3年前、センターに入ったばかりのころは遠くに思えた卒業までの道のりは、今にして思えばアツと言う間の出来事であったのではないのでしょうか。今後とも健康には充分留意して、センターで培った知識や技術を土台に、それぞれの道で活躍されることを期待しています。

3年生支援課担当 山田 裕基

ご卒業、おめでとうございます。3人だけの卒業学年ということで、いろいろなプレッシャーがありましたね。この日を迎えるにあたり、様々なことを乗り越えられてきたことと思います。本当にお疲れ様でした。そして今日からは、新たな人生のスタートです。これからが本番です。皆様のご健康とご活



躍をお祈りいたします。

自治会長

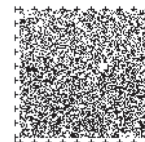
ご卒業、おめでとうございます。視力にハンディをもった我々が、一つのことを成し遂げること、それは大変な努力と忍耐が必要だと思います。それを成し遂げた皆さんを心より尊敬いたします。ありきたりな言葉ではありますが、「一生懸命頑張った」という言葉はみなさんのためにある言葉だと思います。社会に出られてからのご苦労は、此処で学んだ知識と努力で乗り越えられることでしょう。皆さんの背中を追いかけ、我々も後に続いてまいります。

皆さんのこれからの人生にたくさんの「幸」がありますように。

I WISH YOU ALL GOOD FORTUNE AND HAPPINESS FOR THE FUTURE.

TAKE CARE OF YOURSELF.

復活！フロアバレーボール部



年々部員数が減少し昨年度からはついに休部となっていたフロアバレーボール部が今年度から活動を再開しています。部員数は男性6名、女性5名の合計11名で、放課後を利用して週に1、2回練習に励んでいます。

11月には3年ぶりに「はばたけフロアバレーボール大会」に9名の部員で参加しました。大会前にはOBの方がセンターの体育館まで練習の手伝いに来てくれたり、大会中にもアドバイスしてくれたり、多くの先輩方とも交流することができてたいへん嬉しく感謝しています。結果は予選で敗れましたが、大会という普段の練習では味わえない雰囲気の中、緊張もしましたが貴重な体験になりました。また、戦術面でも参考にな

ることが多く、今後の練習の糧にしたいと思います。

これからもフロアバレーボール部をよろしくお願ひします。



「新生フロアバレーボール部！」

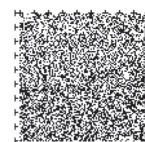
Eyeあいフェスタ

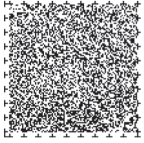
平成25年10月27日(日)、当センター主催、今年で3回目の「Eyeあいフェスタ」が、JR九大学研都市駅前の「さいとぴあ」にて開催されました。

今回も地元住民の方々を中心に約100名の来場参加があり、視覚障害者福祉に関する情報発信の場を提供させていただきました。

当センターからの催しは「市民公開講座(東洋医学と養生法)」、「マッサージ体験」、「視覚障害者の介助歩行体験」、「見えない・見えにくい方の相

談コーナー」、「日常生活用具の紹介」。協賛いただいた九州盲導犬協会からは盲導犬体験歩行、家電メーカー様からは音声案内対応の家電製品数種を、福祉機器取扱い業者様からは最新のルーペ、読書器等の補助具を紹介いただき、来場参加者の皆様に好評を得ることができました。更には広く当センターの業務内容や視覚障害の方の生活が便利になる福祉サービス、生活用具の活用法等についてご理解いただけた一日となりました。





今津福祉村運動会

去る10月6日(日)、当センターグラウンド及び体育館において、今津福祉村運動会が開催されました。この運動会は、今津福祉村(校区社会福祉協議会)が、地域住民と施設利用者との交流を深めることを目的に2年に1度開催しています。第33回を迎える今年は各町内、学校及び施設より13チームが参加して行われました。運動会は9時30分の入場行進により始まり、開会式、準備体操等を行った後、施設等が考案したプログラム「以下、施設演技」を含む17のプログラムが実施されました。当センターの利用者・職員は、「いまづ競輪」、「そろりと慎重に参ろう」、「地

域・職域リレー」、「愛情診断」の各プログラム出場に加え、施設演技としてフロアバレーボールを紹介しました。フロアバレーボール紹介では、部員によるデモンストレーションや希望者への体験等を実施したこともあって、たくさんの方に観ていただくことができました。また、地域・職域リレーには8月に発足したばかりの陸上部(利用者)が中心となって出場をしました。成績は施設演技、地域職域リレー共に優勝を果たせませんでした、大きなケガもなく、各競技を楽しく無事終了することができました。

大活躍！陸上と水泳で上位入賞！！

●平成25年9月29日(日)、第18回福岡市障がい者スポーツ大会が東平尾公園博多の森陸上競技場で行われました。

小雨の降るあいにくの天候でしたが、約2000人の参加者で大変盛り上がりました。当センターから6名が参加しましたので、結果を報告します。

(敬称略)

800m▶区分26 1部 1位 吉永 光輝 2分36秒2

立幅跳▶区分25 2部 1位 浅山 賢一 2m29cm

▶区分26 1部 1位 吉永 光輝 2m55cm

▶区分26 2部 1位 近藤 孝幸 2m11cm

走幅跳▶区分26 2部 1位 近藤 孝幸 3m72cm

砲丸投▶区分25 2部 1位 一瀬 智美 10m06cm

ソフトボール投

▶区分25 2部 1位 浅山 賢一 47m48cm

2位 一瀬 智美 44m30cm

▶区分26 1部 1位 松田 勇蔵 36m91cm

ジャベリングスロー

▶区分26 2部 1位 松田 勇蔵

19m10cm

アキュラシー

▶Cサイト 2組 6位 原 まみ子 3点

ディスタンス

▶Bサイト 女子立位1組 4位 原まみ子 13m62cm

4×100mリレー

▶身体の部 3組 1位 吉永 松田 近藤 一瀬 1分03秒8

詳しくはWebで！

●平成25年11月24日(日)、第24回北九州市障がい者水泳大会が行われ、当センターから3名参加しました。結果は以下の通りです。

浅山 賢一

▶25m自由形 1位 50mバタフライ 1位

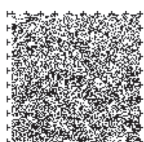
吉永 光輝

▶25m背泳ぎ 1位 50m自由形 1位

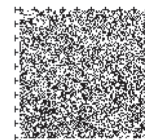
原 まみ子

▶25m平泳ぎ 1位 25m背泳ぎ 1位

詳しくはWebで！



自立訓練について—点字訓練—



視覚障がい者のコミュニケーションというと、真っ先に「点字」を思い浮かべる方が多いかと思えます。街中でも点字を見かけることが多々ありますよね。最近は小学校でも点字を体験する授業もあるとか。そういった「点字」の拡がりを感じるなか、衝撃的な事実があります。それは、点字を使いこなせる視覚障がい者は、全体の1割程度しかないということです。その要因の1つとしては、他の障がいに比べて成人の占める割合が大きく、点字を知らない、もしくは使いこなせない中途視覚障がい者が増加していることが考えられます。

人生半ばで目が見えなくなったり、見えにくくなったりすると、これまで獲得してきた日常生活動作が通用しにくくなります。特に文字が使えないといった場合には、点字やパソコンなどの代わりとなるコミュニケーション手段を習得する必要があります。

センターで行う「点字訓練」では、本人の希望に

沿った個別のプログラムを作成し、点字の必要性等を踏まえた訓練を行います。授業は職員1名に対して1～2名で行い、かな50音・数字・アルファベット等の読み書きが可能になるよう目指しています。



「点字訓練の様子」

センターに関するQ&A

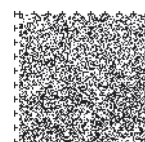
Q：視力障害センターが提供するサービス内容は？ ～その2～

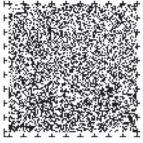
A：前回、就労移行支援(養成施設)サービスについて紹介しました。今回は、自立訓練(機能訓練)サービスについて紹介します。

- 自立訓練(機能訓練)は、視覚に障害のある方で、施設利用について市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた方を対象に日常生活および社会生活を送る上で必要な知識や技能の習得のため各種訓練を行い、社会参加することを目的としています。
- 内容は、本人の意向や進路及び評価結果に基づき、歩行、日常生活(身辺及び家事管理・調理)、コミュニケーション(点字、パ

ソコン、ハンドライティング:書字)、プレックストーク等録音再生機器、スポーツの各種訓練のほか、視覚的補助具の紹介、栄養指導、健康管理を組み合わせるプログラムを作成し、訓練を行っています。

- 利用定員は10名、利用期間は個々人の視覚の保有状況や能力、進路等により異なりますが、昨年度の平均利用期間は7ヶ月となっています。
- 自立訓練終了後は、就労移行支援(養成施設)への移行、在宅生活、復職等様々です。





利用者募集

1 当センターが提供する施設障害者福祉サービス

サービス内容	対象者	定員	利用期間	訓練内容
自立訓練 (機能訓練)	視覚に障害のある方で、施設利用について市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた方	10名	18ヶ月以内 *対象者の状況に合わせた期間になります	歩行訓練(屋内での移動や白杖を使用している屋外歩行)、コミュニケーション訓練(点字・パソコン等)、日常生活訓練(身辺管理、掃除・洗濯・調理等の家事管理)等
就労移行支援 (養成施設)	視覚に障害がある方で、次の①又は②に該当し、施設利用について市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた18歳以上65歳未満の方 ①学校教育法第90条第1項の大学に入学することが出来る方 ②施設における個別利用資格審査により高等学校を卒業した方と同等の学力があると認められた方	60名	3年	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の国家試験受験資格取得に向けた学習、就労マッチング支援(職場開拓・就職活動・フォローアップ等)等
施設入所支援	上記の2サービスの利用者で、通所困難な方	70名	上記の2つのサービス提供期間内	宿舍の提供、食事の提供、生活支援等

2 利用開始日と申込締切日

(※)年3回実施 利用定員に達し次第募集は締切ります。

サービス内容	利用開始日	応募締切日	利用者選考日
自立訓練(機能訓練)	毎月月初め頃	随時受付	書類審査のみ
就労移行支援(養成施設)	毎年度4月上旬	第3回 平成26年2月7日(※)	第3回 平成26年3月上旬

3 利用に関するお問い合わせ

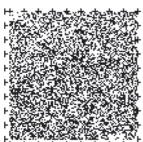
費用・内容等についてはお気軽にお問い合わせください。

また、センター利用をご検討の方がおられましたら、センター紹介資料(DVD)を送付させて

いただきますので、お知らせください。

電話：092-807-2844(支援課)

Eメール：nyusyo@fukuoka-nhb.go.jp



編集後記

2-B K.Tさん

卒業生の皆さんへ、ご卒業おめでとうございます。

入所していろいろありましたね。勉強やプライベート事の相談にのってもらったり、また、カラオケで一緒に朝まで歌ったことも…今ではいい思い出です(；_；)

卒業されてからも、たまには皆の事を思い出してください。また、仕事もうまくいこう陰ながら応援しています。